

令和2年度事業計画 事業名および事業概要

■定時社員総会

[共通]

令和2年5月25日(月) 外部会議室で開催予定。主な議案としては、①令和1年度事業報告、②令和1年度決算(貸借対照表、損益計算書、及び財産目録)承認の件、③理事、監事選任の件、④名誉会員選定報告の予定。

【役員会等】

■理事会

[共通]

本会の意思決定機関として、本会事業活動を担っている各部門・委員会等の事業の活動状況の報告をうけ、定款によって定められた審議事項ならびに各委員会・支部・部会を含めた会全体の運営に係わる事項について審議・決定する。また、代表理事・業務執行理事の職務を監督する。令和2年度は5回開催予定。

■顧問会

[共通]

本会の会長経験者をもって組織し、本会運営上の重要課題について大所高所から意見を伺う場として、令和2年度は1回開催予定。

■相談役会

[共通]

本会運営上の重要課題について産業界の立場から意見を伺う場としての相談役会については、産業界との連携を密にし、日本化学工業協会の理事会等の場を利用して、意見を伺うこととする。

■支部長・部会長会

[共通]

本会の7支部、および5部会の事業計画・活動状況について情報交換するとともに、本部としての運営に係わる重要方針を伝達する場として、令和2年度は3回開催予定。

【運営会議関係】

■運営会議

[共通]

会長、筆頭副会長、副会長、常務理事、および会長指名の者により構成し、理事会の予備的審議機関として、本会運営上の短・中・長期的重要事項、会全体としての事業・予算上の重要事項、広報すべき事項、会長提案事項等について審議する。令和2年度は4回開催予定。

■戦略企画委員会

[共通]

会長、筆頭副会長、常務理事、次期会長最終候補者および会長指名の者で構成し、本会の活動、事業および経営に関する基本戦略の策定、推進および管理を行うとともに、本会全体に影響を及ぼす重要課題についての戦略策定を行い、理事会に提案・報告する。令和2年度は4回開催の予定。

また、平成30年度より化学会館将来構想小委員会を設置し今後の会館化学会館運用の将来計画を検討してきたが、令和1年度9月に小委員会を廃止し、「総合定例会議」「デザイン設計定例会議」で今後の改修工事の詳細検討を行っている。本年度も引き続き議論を継続する。

■広報委員会

[共通]

本会の事業活動を内外に積極的に広報するとともに、広く社会に対し化学に関する知識の普及および情報の提供に努めることを主たる目的として、①ニュースリリース、記者会見などによって速やかに情報を発信、②「化学の日」、「化学週間」を通じて化学の理解、社会的関心を高めることに努める。③本会の事業活動を報告するアニュアルレポート2020を発行予定。委員会は必要に応じて開催する。

■倫理委員会

[共通]

本会会員が『日本化学会会員行動規範および行動の指針』に則した真摯な活動を通じ、本会が社会の信頼と期待を付託された化学研究者・技術者の専門家集団として一層発展するよう支援することを目的とする。委員会は必要に応じて開催する。

■論説委員会 [共通]

学会としてより社会にむけて積極的に発言するため、化学、化学技術関連の時事テーマを随時とりあげ、それに対する見解を機関誌、本会ウェブサイトなどに「論説」として掲載し、またその論説に対する読者からの意見をも掲載して問題に対する会員および一般社会の理解を深めることを目指す。論説委員10名とゲスト論説委員が、「化学と工業」誌に順次執筆し記事を掲載。令和2年度は2回開催予定。

■化学オリンピック支援委員会 [公益2]

化学オリンピック日本委員会の目的を継承し、化学に対する社会的関心を高めるとともに、化学分野の次世代人材の拡充と育成に寄与するために、国際化学オリンピック大会に関する国内および国際的活動を支援する。国際化学オリンピック大会の日本代表候補者に対する訓練支援、日本代表の選抜・訓練に対する支援、国際化学オリンピック大会に対する国際的支援などを行う。

【会務部門】

■会務部門会議 [共通]

役員選考制度や賞選考制度など会務運営に関わる重要課題および委員会の枠を越えた課題等について必要に応じて検討し、結果を理事会に報告・提案する。令和2年度は、公益法人の運営を円滑に実施するための諸施策、会員増強のための諸施策、各賞選考に関する検討、財政健全化のための諸施策などを中心に議論する。令和2年度は適宜開催予定。

■会員委員会 [共通]

会員維持・増強に向け、費用対効果を考慮しながら、制度改革や会員サービスの改善を図る。会員増強については、関連部門・支部・委員会と協力しながら取り進める。令和2年度は4回開催予定。

■役員候補者選考委員会 [共通]

各支部、ディビジョンおよび理事会から推薦された次年度の副会長、理事、監事候補者について、各支部所属代議員から選出された役員候補者選考委員により選考することを任務とし、令和2年度は1回開催予定。

■学会賞選考委員会 [公益1]

各支部、部会及びディビジョンより推薦された日本化学会賞の受賞候補者(6件以内)の選考を任務とし、令和2年度は2回開催予定。

■学術賞・進歩賞選考委員会 [公益1]

各支部、部会及びディビジョンより推薦された学術賞(12件以内)、進歩賞(10件以内)の受賞候補者の選考を任務とし、令和2年度は2回開催予定。分野別選考委員会は1回(郵便投票)開催予定。

■化学技術賞等選考委員会 [公益1]

各支部、産学交流委員会、関係機関、部会及びディビジョンなどより推薦された化学技術賞(5件以内)、技術進歩賞(3件以内)、化学技術有功賞(若干数)の受賞候補者の選考を任務とし、令和2年度は郵便による審議1回と委員会1回開催予定。

■化学教育賞等選考委員会 [公益1]

各支部、教育・普及部門、部会及びディビジョンなどより推薦された化学教育賞(3件以内)、化学教育有功賞(5件以内)の受賞候補者の選考を任務とし、令和2年度は1回開催予定。

■女性化学者奨励賞選考委員会 [公益1]

各支部、部会、ディビジョン及び男女共同参画推進委員会より推薦された女性化学者奨励賞(2件以内)の受賞候補者の選考を任務とし、令和2年度は委員会1回開催予定。

【研究交流部門】

■研究交流部門会議 [共通]

学術集会や研究交流に関わる重要課題および委員会の枠を越えた課題について必要に

応じて会議を開催し、結果を理事会に報告・提案する。

■学術研究活性化委員会 [公益1]

化学研究のさらなる活性化を目指し、①春季年会活性化策の検討（年会の英語化・国際化、講演枠組みの改革等）、②部会活動・ディビジョン活動の活性化策の検討、③アジア国際シンポジウムの企画・実施、④部会・研究会・新領域研究グループ等の事業評価、⑤CS3の実行案策定、⑥融合領域を対象とする第二次先端ウォッチング調査および報告書の作成、⑦21ディビジョンの活動状況の管理を行う。令和2年度は2回の委員会開催を予定。

■ディビジョン運営委員会 [公益1]

会員相互の学術的・技術的知識の増進を図るため、化学関連分野ごとに設置された21ディビジョンの活動方針を討議する。令和2年度は2回の委員会を開催予定。

■国際交流委員会 [公益1]

第100春季年会において、二国間協力協定に基づく日本・台湾シンポジウムの開催や、英国王立化学会と共同で行うPCCP Prize表彰式および海外ゲストを対象に懇親会の開催を予定する。命名法、原子量、単位・記号の各専門委員会はIUPACでの決定事項を受け、その内容を会誌やWeb等を用いて周知を行なう。

■2020環太平洋国際化学会議（PACIFICHEM 2020）実行委員会 [公益1]

本年2020年12月に本会主催で開催するPacifichem2020の成功にむけて、国際組織委員長である澤本光男教授のもと鋭意準備を進めている。前回より85件多い419のシンポジウムが12月15-20日の会期中ホノルルで「Pacifichem 2020: A Creative Vision for the Future」をテーマに開催される。1月からは講演申込がスタートし、前回の16,500件を超える講演数を目標とし引き続き円滑な会議運営と日本からの参加促進を目指し、主催7か国と協調して活動を行う

■IUPAC賛助委員会委員会 [公益1]

本委員会は、賛助会員の会費の管理、ならびに賛助会員に関する活動を任務とし、令和2年度は委員会を1回開催予定。

■第100春季年会実行委員会 [公益1]

2020年3月22～25日に東京理科大学野田キャンパスで開催予定。実行委員会のもとにプログラム、講演企画、ATP、会場・総務、広報の小委員会を組織し、実施する。日本化学会の国際化基本方針に基づき、年会の英語化や海外の研究者、国内の外国人研究者・留学生の参加しやすい環境を整備する。

■第101春季年会実行委員会 [公益1]

2021年3月19～22日に日本大学理工学部船橋キャンパスで開催予定。実行委員会にプログラム、講演企画、ATP、会場・総務、広報の小委員会を組織し、準備を進めていく予定。

■男女共同参画推進委員会 [公益1]

性別に関わり無くその個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会を、他の学協会との連携のもと実現させることを任務とする。学協会連絡会シンポジウム、女子中高生夏の学校等への参加を予定。令和2年度は3回の委員会を開催予定。

■化学遺産委員会 [公益2]

化学に関する学術と教育の向上及び化学産業の発展に資することを目的に、①化学遺産認定事業、②オーラル・ヒストリー事業、③会員及び一般市民を対象とする化学・化学技術史に関する普及・啓発事業、を重点的に行う。令和2年度は2回の委員会を開催予定。

■環境・安全推進委員会 [公益1]

環境・安全に関する事項の審議と事業の推進を任務とし、化学安全スクリーニング、環境教育講演会や刊行物の企画等を行ない、環境・安全にかかわる人材・管理者の育成を図る。令和2年度は1回の委員会を開催予定。

【学術情報部門】

■学術情報部門会議 [共通]

学術情報部門に関わる重要課題および委員会の枠を越えた課題について必要に応じて会議を開催し、結果を理事会に報告・提案する。

■化工誌編集委員会 [公益1]

本会機関誌として、化学および関連分野の情報を豊富に掲載し、会員にとって興味ある、また役立つ「化工誌」を目指す。令和2年度は編集委員会2回、編集幹事会6回、広告小委員会は4回開催予定。発行は、月1回、年12冊。総頁数1,200頁、総発行部数280,000部予定。

■欧文誌編集委員会 [公益1]

「欧文誌 (Bulletin of the Chemical Society of Japan)」編集委員会は1回、幹事会4回開催予定。電子版のみで、月1回、年12号200論文発行、総頁数1,900頁(論文のみ)を予定。

■速報誌編集委員会 [公益1]

「速報誌 (Chemistry Letters)」編集委員会は1回、幹事会4回開催予定。電子版のみで、月1回、年12号400論文発行、総頁数1,500頁(論文のみ)を予定。

■The Chemical Record(TCR)、Chemistry An Asian Journal (CAJ) [公益1]

両誌ともに出版元であるWiley-VCHと連携して編集強化に取り組む。CAJは年に1回編集会議に委員が出席予定。

■刊行物 [公益1]

CSJカレントレビューや化学の要点シリーズの編集刊行および化学便覧基礎編改訂6版の編集を継続する予定。また、既刊行物の宣伝の検討も適宜行う。

■国際情報発信力強化(欧文誌・速報誌) [公益1]

平成30年度より科研費をベースとしたジャーナル戦略を推進するために、①新規プラットフォームを活用した利用者動向解析と新規読者層開拓、②グローバルな著者マーケティング活動の展開、③SNS等による国際情報発信強化に取り組む。

【産学連携部門】

■産学連携部門会議 [共通]

産官学の交流・連携に関わる重要課題について必要に応じて会議を開催し、結果を理事会に報告・提案する。

■産学交流委員会 [公益1]

産官学の交流・連携をより一層積極的に推進するため、次の事業を実施する。①他学協会との連携推進、②小委員会活動による新事業の推進、③産学交流委員会収支状況の解析と改善策の提案、④協力委員に対しての周知が各社委員に最大限伝達する方策の検討。令和2年度は3回の委員会を開催予定。

■化学フェスタ実行委員会 [公益1]

秋季事業として、第10回CSJ化学フェスタ2020を10月20～22日にタワーホール船堀で開催する予定。「産学官の交流深耕」、「化学の社会への発信」を主たる目的とし、一層の発展と活性化を図る。

■吉野彰研究助成委員会 [公益1]

吉野彰氏(旭化成株式会社、日本化学会フェロー)からの寄附を基に基金を設立し、「吉野彰研究助成事業」を平成26年度に創設した。令和2年度は1件の研究助成を行う予定。

■教育・普及部門

教育・普及に関わる重要課題について会議を開催し、結果を理事会に報告・提案する。①学校教育の充実、②化学の普及・交流、③会誌「化学と教育」の充実、④化学グランプリ・オリンピックの充実・強化を活動の4本柱として、各支部教育・普及および関係諸団体と連携して活動を行う。令和2年度の部門会議は3回(支部代表を交えた拡大会議2回を含む)開

催予定。また「化学と化学産業に対する社会の理解を深め、それらの発展に寄与すること」を目的に「夢・化学-21」委員会を中心に活動に取り組む。また「化学の日」「化学週間」を通じて化学の理解、社会的関心を高めていくことに努める。

■学校教育委員会 [公益2]

化学教育の振興を任務とし、傘下に①大学入試問題検討小委員会、②グリーン化学実験小委員会、③化学用語検討小委員会で活動を行う。令和2年度は1回の委員会を開催予定。

■普及・交流委員会 [公益2]

化学の普及活動を任務とし、傘下に①化学だいすきクラブ小委員会、②国際関係小委員会、③実験体験小委員会、④クイズショー小委員会、⑤化学教育フォーラム企画小委員会を設置して活動を行う。令和2年度は2回の委員会を開催予定。

■化教誌編集委員会 [公益2]

化学全般の解説記事及び化学の教育現場に有用な記事・論文を掲載し、会員の助けとなる会誌を目指す。誌面改革にも継続的に取り組み、化学と教育誌の主力読者である高校教員への周知、読者拡大、教育会員の拡大につなげる。編集委員会 年3回、編集幹事会 年5回、小委員会 適宜開催予定。発行は、月1回、年12冊。総頁数 630頁、総発行部数43,000部予定。

■化学グランプリ・オリンピック委員会 [公益2]

化学の普及を目的に高校生以下の生徒を対象とした「化学グランプリ」を実施する。また、「化学グランプリ」等から選抜された生徒に強化・訓練を施して、国際化学オリンピックへ代表生徒を派遣する。令和2年度はトルコ大会（2020年7月6～15日、イスタンブール）の代表候補および代表の選抜・訓練支援、国際化学オリンピックに対する国際的支援などを行う。令和2年度は委員会を3回開催予定。

■支部事業 [公益1、公益2]

北海道、東北、関東、東海、近畿、中国四国、九州の7支部において、地区大会のほか、化学教育・普及事業や各種講演会、講習会、研究発表会、支部長賞などの表彰事業などを行う。

■部会事業 [公益1]

化学における特定分野（コロイドおよび界面化学、ケモインフォマティクス、生体機能関連化学、バイオテクノロジー、有機結晶）を専門的に取り扱い、それぞれの分野において専門的なトピックに特化したシンポジウム・講習会・討論会の運営、会員向け機関誌の発行などの活動を予定。

■化学情報センター [公益1]

本会発行物、IUPAC関連資料、共催・協賛の要旨集、国際会議、化学史関連資料の収集・保管を中心に、新刊刊行物の本会ウェブサイトでのお知らせ、文献複写依頼、センター訪問者の対応を行う。

【収益事業】

■事務室賃貸

テナント5団体〔（公社）有機合成化学協会、（一社）情報処理学会、（一社）触媒学会、英国王立化学会、国際化学オリンピック日本委員会〕への事務室の賃貸を継続する。

また、化学会館の将来構想に関しては、昨年引き続き検討を継続する。賃貸面積は増加させ、収益の増加を目指す予定である。

以上